

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2018年12月25日～
2019年1月1日）
入場料 一般 300(240)円 高大 150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。
()内は20名以上の団体料金

瓦版 大木戸

Kawaraban OKIDO

Vol.61

2018年（平成30年）12月11日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/>



上総地方のお飾り

正月を迎えるために、私たちは大掃除をして、正月飾りをかけ、お餅やおせちなどの食べ物の準備をします。そして、除夜の鐘を聞きながら、新しい年を迎えることを祝います。正月になると、初詣に行き、今年が良い年でありませうようにと祈ります。日本人にとって、正月は一年の最初の月ということではなく、「年神様」と呼ばれる神様を迎え、一年の豊かな稔りを祈念する大切な時期です。

この正月をどう迎えるかをテーマに、年神の依り代としてお飾りや門松の地域的な特色を中心に紹介します。



平成三十年度企画展

「正月を迎える」

本展示は三章で構成されていますが、まず、正月は何を迎えるお祝いなのか、正月行事はどのように行われてきたのかを、古代と近世の文献から見ていきます。

一章の「房総のお飾り」では、房総のしめ飾り、伝承切り紙、門松を取り上げます。全国のしめ飾りと房総のしめ飾りを並べてみると、多様な形があることや、部分的に類似しているところなどがわかります。そこから地域の生活様式などをうかがい知ることが出来ます。伝承切り紙は、南三陸の切り紙と房総の切り紙を紹介しています。門松は房総のむら内で再現展示をしている、佐原の門松のほか、松を使わない「門神」について紹介しています。このほか、房総の武家・農家・商家の正月の過ごし方などを、資料をもとに展示します。

コラム「房総の食・雑煮」では、ハバ雑煮という房総特有の雑煮と、一部の地域で食べられている雑煮を取り上げています。使われている具材に地域性を見ることが出来ます。

二章の「房総の年頭行事ーオビシヤー」では、房総で行われている、弓的を射るオビシヤを取り上げていますが、弓的を使わないオビシヤも紹介しています。ここでは、地域の人々の新しい年への願いをオ

会場：風土記の丘資料館第二展示室
会期：平成30年11月24日（土）～
平成31年1月20日（日）

ビシヤの神事をおして見ていきます。三章の「房総の正月風景」では、今も行われている正月遊びと、今と昔の正月風景の写真を展示しています。遊びの中に込められた願い、生活の中に浸透している今と昔の正月の姿を見ていきます。

こうしたものから、上総・下総・安房それぞれ地域の正月の迎え方と、そこに込められている祈りや願いなどを読み取っていただければと思います。

また、会期中には正月にちなんだ、さまざまなイベントも開催します。毎年館内に門松やしめ飾りを展示していますが、企画展に合わせて特別なものも町並みに展示しますので、正月の風景を楽しみながら、探していただければと思います。

（商家グループ 蒲生）



房総のむらで展示している門松

今後開催予定の関連イベント

ワークショップ

ミニ門松作り

12月23日(日) 9:30～12:00
13:30～16:00

体験費：1500円 対象：中学生以上
定員：各回10名(要予約)

雑煮食べ比べ

1月5日(土)・6日(日)
11:00～13:00

体験費：無料
定員：各日100名



展示説明会

1月14日(月祝) 13:30～14:00
会場：風土記の丘資料館第二展示室

実演

上総のお飾り作り 12月14日(金)
安房のお飾り作り 12月14日(金)

上総の農家

「七夕馬作り」

草やイネ科の植物で作られた馬や牛を伝える地域は全国に多くありました。特に東日本で多く見られ、千葉県でも盛んに作られてきました。

千葉県では、馬や牛を草やイネ科の植物などで作る七夕行事は、七月七日(新暦)に行いますが、以前は旧暦の七月七日(八月中旬頃)に行われていました。

七月七日は、織姫と彦星が七夕の夜に年一度だけ天の川を渡り、会うことができる。と言う中国から伝わった伝説があります。この伝説が江戸時代後期から一般化すると、夜が晴れて天の川が見られるように天に願うことから転化して、裁縫や習字、芸事が上手になるように星に願っていました。やがて短冊に願いを書くようになり、笹竹に結び付ける七夕飾りとなりました。

また一方で、ご先祖様をお迎えに行く馬を草やワラで作り、墓掃除をするなどお盆の始まりを意味する行事も行われています。昔は馬や牛は貴重な労働力でその慰労や魔除けとして、毎年七月七日に水辺に生えているマコモ等の材料に七夕馬(マコモ馬・カヤカヤ馬)を作り、様々な行事が各地域で行われていました。七月七日は新盆の一週間前で、お盆に先祖を迎えに行く先祖崇拝の考えと中国の行事が習合したものと考えられます。特に上総地域では、江戸時代



茂原市地域の七夕馬

から行われていた七夕馬が時代の世相により、いつしか中止となったものが昭和二十年代に突然始まり、三十年代には七夕馬が作られなくなりました。現在では、七夕馬を作る技術者がごく僅かながら継承しているに過ぎません。これは農業生産の機械化と消毒等の発達により材料の調達が困難になったことや、農家世帯が中心となり技術を保持していたものが、農業生産者の減少とともに技術も減少したことが原因として考えられます。

毎年、房総のむらの上総の農家では、七月に七夕馬作りの実演を行っています。機会があればぜひ失われつつある七夕馬作りの実演をご覧になってはいかがでしょうか。

(農家グループ 平山)

商家

「本格煎茶作り」

商家のお茶の店「山辺園」では、六月九日、十日の二日間、さしま茶手揉み保存会の方々に講師にお招きし、「本格煎茶作り」の体験を行いました。

かつては中国から入ってきたお茶の文化ですが、日本独自の製法に変化し、今では日本人の心に深く定着したものとなりました。

手揉み茶は、蒸し、葉打ち、回転揉み、玉解（たまとき）、中上げ、もみきり、中もみ、仕上げもみ、乾燥の九工程からなる長時間の作業です。全ての工程において高い技術や長年の経験が求められます。特に蒸しの工程では、茶葉の香りを頼りに蒸しを加減しなければならず、熟練した勘を必要とします。



焙炉の上で、茶葉を葉打ちしている様子

体験では、蒸しを省略し、葉打ちから行います。焙炉（ほいろ）という作業台を使い、茶葉を下からガス器具を使って熱しながら乾燥させていきます。長時間の作業であることに加え、体全体を使って揉む作業が続くため、大変な力仕事です。

今回、体験に参加された方々は「自分たちの生活に大きく関わっているお茶の製造方法がこれほど大変であることは知らなかった」と驚いていらっしゃいました。

この「本格煎茶作り」体験は来年三月二日に実施予定です。自分で揉んだ出来たての茶葉を七十グラム持ち帰ることが出来ます。また、休憩の時間を利用して講師の先生がおいしいお茶の入れ方のご指導をしてくださいます。お茶は、お湯の温度によって味、香り、効能が変わります。ほうじ茶と玄米茶の味や風味が違うということは誰でも知っていますが、同じ茶葉を使っても入れ方一つで味に変化があるということはありません。あまり意識されていないかもしれません。この機会にぜひ体験してみたいかがでしょうか。みなさまのご参加をお待ちしております。

（商家グループ 細谷）

体験日：三月三日（日） 十時～十五時
体験費用：一五〇〇円
定員：八名 対象：中学生以上
エプロン・タオル・三角巾・マスク・昼食持参。臭いが移るため、香水類はご遠慮ください。

風土記の丘資料館

「浅間山古墳の石室再現」

風土記の丘資料館では、第一展示室の展示を当地の歴史的環境を活かした内容に替える計画を進めています。一九七六（昭和五十一）年の開館当時は、県内に考古系博物館がなかったため、第一展示室は県内全域の古墳と寺を対象に時代を通して紹介する内容でした。その後、佐倉市に国立歴史民俗博物館、千葉市に県立中央博物館が開館して、考古資料を含む総合的な歴史資料が展示されているのは周知の通りです。そこで、資料館では、国史跡龍角寺古墳群（東日本随一の後期～終末期古墳群）・龍角寺（初期寺院）・埴生郡衙関連遺跡（奈良時代の郡役所跡）という、七世紀～八世紀の古代国家成立期に関わる資料がすべて揃った地の利を活かした展示を準備してきました。二〇一四（平成二六）年から五年計画が始まり、今年が最終年になります。

龍角寺古墳群関連の資料で選んだのが、浅間山古墳の横穴式石室です。全国的な知名度から見れば、七世紀最大の古墳で、当時の天皇陵より規模が大きい岩屋古墳を中心に据えたいところですが、岩屋古墳の石室が盗掘にあつて副葬品の内容が全く分らないのに対し、浅間山古墳は葬られた人物の地位を知る手がかりとなる冠飾りや、武器・武具などの副葬品が出土しているため、よりわかりやすい展示になると考えました。

浅間山古墳の石室は、筑波産の大きな板石を組み合わせて造られているため、現地で見学するには大がかりな安全対策工事が必要で、そのため、発掘調査後は土嚢を詰めて埋め戻したので、現地では石室を見ることが出来ません。石室の復元模型は、発掘調査時の図面や写真、ビデオ映像を基に実物大で再現しました。

葬られた人物は少なくとも二人、六世紀終わり頃から七世紀の初めにこの印旛の地を治めた大豪族です。都では、華やかでエキゾチックな飛鳥文化が花開いていました。副葬品にはその息吹がうかがえます。彼らは、生前活躍した証をこの石室に納めて、後の世に伝えたかったのでしょう。石室の中に入って、彼らが後の世に託した思いを感じてみてください。

（風土記グループ 白井）



浅間山古墳石室復元模型

房総のむら写生コンクール作品展

房総のむら写生コンクールは、一九七九（昭和五十四）年に友の会との共催事業として始まり、今年で四十回をむかえる歴史の深いコンクールです。

画題は、房総のむらの風景・龍角寺や北印旛の情景・龍伝説を題材としたもので、今年も小学校十四校、中学校四校、一般の方々など、合わせて二五七点もの応募がありました。

個性的で力作揃いのたくさん作品から選ばれた、入選・入賞作品七十二点（館長賞一点、友の会会長賞一点、金賞九点、銀賞十八点、入選四十三点）を、十月二十日～十一月十八日の間、風土記の丘資料館にて展示しました。

そして、十一月十一日には入賞された方々の表彰式を行い、受賞者やご家族の方など、たくさんの方々にご出席いただき、会場は満員となりました。また表彰式では



風土記の丘資料館2階の休憩室では、入選・入賞作品を展示しました。

審査員の先生方から作品についての丁寧な講評もいただきました。館長賞と友の会会長賞を受賞した作品は、来年の写生コンクール開催まで、房総のむら「総屋」にて展示しています。

来年度の写生コンクールにもぜひご応募ください。皆さまの作品をお待ちしています。



表彰式では、館長・友の会会長より表彰状が渡されました。

（広報・普及グループ 藤岡）

むらのお正月

一月二日（水）・三日（木）に「むらのお正月」を開催します。

日本の伝統的な正月飾りの展示や、正月ならではの箏の演奏・大道芸の披露、体験などを行います。また毎年大人気の干支の絵馬の無料配布も行います。当日は、和服を着た方は入場料が無料となります。

年の始まりをご家族やお友達と、房総のむらで過ごされてみてはいかがでしょうかでしょう。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

（広報・普及グループ 高原）

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設置、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



◆編集後記◆

十二月に入り、寒い日が続くかと思いきや、二十度を超える日が出るなど、なかなか気温が安定しない毎日となっています。

さて、今年度の企画展は「正月を迎える」ですが、会期中に正月をはさみます。「むらのお正月」をはじめ、農家・商家の町並み・武家屋敷にも正月飾りが展示されます。併せてご見学されてはいかがでしょうか。

（広報・普及グループ 高原）

平成30年度これからのイベント

- 企画展「正月を迎える」
11月24日（土）～平成31年1月20日（日）
- 写真展「レンズをとおした房総のむら」
12月8日（土）～平成31年2月24日（日）
- 「むらのお正月」
平成31年1月2日（水）・3日（木）
- 大道芸入門
平成31年1月27日（日）
- トピックス展「むらの昆虫」
平成31年2月2日（土）～3月17日（日）
- 「ビックリひなまつり」
平成31年2月16日（土）～3月10日（日）
- 房総座「柳家三三落語会」
平成31年2月16日（土）
- 考古学講座「千葉県北東部の最新発掘調査成果（仮）」
平成31年2月17日（日）
- 「組紐コース作品展」
平成31年3月14日（木）～30日（土）
- 昔の町並み探検隊（市川市）
平成31年3月17日（日）